

人口減少社会と

地方都市の活力再生

57



株式会社さくら都市総合研究所

主席
研究員

清水 秀幸

14 新田町交差点周
辺を考えるしかしながら、時代
の変遷とともに、新田

町交差点を歩き交う人の流れも変わった。それをいち早く予言したのは、1960年代に東急百貨店（渋谷区）調査課長の任にあった三浦守（のちの東急百貨店社長）である。

当時丸光百貨店との競争で、後塵を拝する丸光百貨店の再建を模索していた東急グループ総師、五島昇に長野駅前への全面移転を進言し、駅前の小諸倉庫敷地の積極的買収により、極めて短期に丸光百貨店（のちのながの東急百貨店）移転を完成させた強者である。

57（昭和32）年の丸光百貨店の権堂町からの移転開設（現トイゴ・SBC本社付近）、翌年の丸光百貨店の開店（現・みずほ銀行長野支店敷地）、そして66（昭和41）年の丸光の大増築（この時、県内ではほとんど前例のないエスカレーター・エレベーターが同時併設されている）、そして76（昭和51）年のダイエー長野店（現・もんぜんぷら座ビル）の進出等々、続々と町交差点周辺に大型店が集結した時代である。

言い換えれば、中心市街地が最も中心市街地らしく、活気に満ち満ちていた時代であり、その代表格が新田町交差点周辺であったのである。

それは、奇しくもトヨタ・ニッサンに代表される大手自動車メーカーが倍々ゲームで量産を開始し、売り上げを急伸させた時代に重なる。

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか3委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長